

はぐくみ



雪やこんこあられやこんこ降っては降ってはずんずん積もる山も野原もわたぼうしかぶり枯木残らず花が咲く



雪だるま作りに雪合戦

10年に1度の大雪。児童の約3割が欠席。国道24号線は上下とも大渋滞。救急車はサイレンを鳴らし通過。歩道橋・校庭の路面が凍結。ビオトープ・プールは氷結。大人は一大事。しかし、子ども達は「雪団子や氷柱」を通学路でゲットし、笑顔で見せに来てくれます。休憩時間は雪遊び。運動場や校庭にはたくさんの雪だるま。昔ながらの2段の雪だるま、洋風の3段のスノーマン。

先日、ALTのルーク先生が来られたので、雪だるまについて尋ねました。「雪だるまを作る」を英語で言うと「make a snowman or build a snowman、どちらが正しいですか。」「Both are ok」でした。大きな3段のスノーマンなら建てる (build) になるかもしれませんね。

さて、日本語の「つくる」と言えば、「造る」「作る」「創る」があります。由良町の造船所、湯浅町の醸造醤油、海南市の醸造酒には造るの文字が使われ、紀の川市のイチゴ・桃・イチジク・八朔・玉ねぎなどの農作物を育てるや、作文を考える時には作るの文字が使われます。

先行き不透明な世の中、子ども達に求められるのは、無から有を生み出す創造性です。6年生の国語の教科書に「創造」という詩が掲載されています。

『一枚の紙から 船が生まれる 飛行機が生まれる ひとかたまりのねんどから
象が生まれる つぼが生まれる 生まれる生まれる 私たちの手から次々と』

雪合戦を楽しむ6年生児童の手にはたくさんの雪団子がのっていました。その手でできっと将来、何かを生み出し創り出してくれるに違いありません。もちろん、下級生の児童の手からも次々と。

ところで雪だるまがスノーマンなら、雪男は何というのだろうか。雪解けしても、私のわだかまりは未だ解けません。インフルエンザ・コロナに注意し、今月も職員一同、気を引き締め頑張ります。

あしあと

マーガレットF・パワーズ

ある夜、私は夢を見た。

私は主と共に、なぎさを歩いていった。

暗い夜空に、これまでの私の人生が映し出された。

どの光景にも、砂の上に二人のあしあとが残されていた。

一つは私のあしあと、もう一つは主のあしあとであった。

これまでの人生の最後の光景が映し出された時、

私は砂の上のあしあとに目を留めた。

そこには一つのアしあとしかなかったのだ。

私の人生で一番つらく、悲しい時だった。

このことがいつも私の心を乱していた。

私はその悩みについて主にお尋ねした。

「主よ。私があなたに従うと決心した時、あなたは、

すべての道において私とともに歩み、私と語り合ってくださいと

約束されました。それなのに、私の人生の一番辛い時、一人の

あしあとしかなかったのです。

一番あなたを必要とした時に、

あなたは、なぜ私を捨てられたのか、私にはわかりません。」

主はささやかれた。

「私の大切な子よ。私はあなたを愛している。

あなたを決して捨てたりはしない。ましてや、苦しみや試練の時に、

あしあとが一つだった時、私はあなたを背負って歩いてきたのだよ。」

※ 大雪の日、歩いて学校に出勤しました。道路にたくさんの

足跡がありました。ずいぶん前に出会った詩を思い出しました。